

(日置郡金峰町大野馬塚松)

位置と環境

馬塚松遺跡は、金峰町に所在し、諏訪神社の南西側の西から東にかけてのびる丘陵の谷部で標高約45mの台地に位置する。遺跡の東から西にかけては、緩やかに傾斜し西端で丘陵にぶつかる地形である。そのため、包含層は中間部の低地に厚く堆積している。

調査の経緯

馬塚松遺跡は、耕種試験場本館の建設のため、平成9年度に確認調査を、平成13・14年度に本調査を実施した。

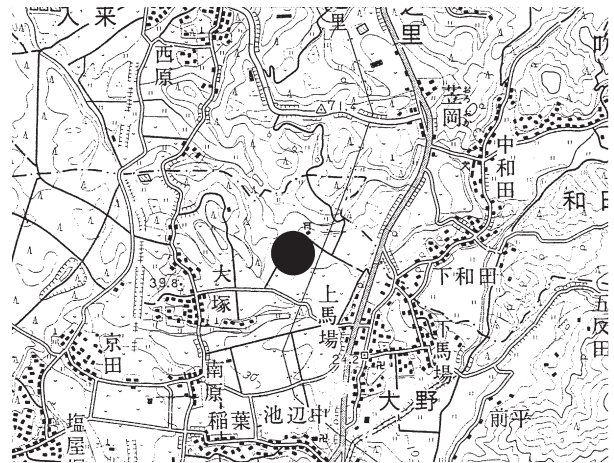
遺構と遺物

縄文時代晩期は、土器や石器などの遺物が中間部の低地を中心に多数出土した。

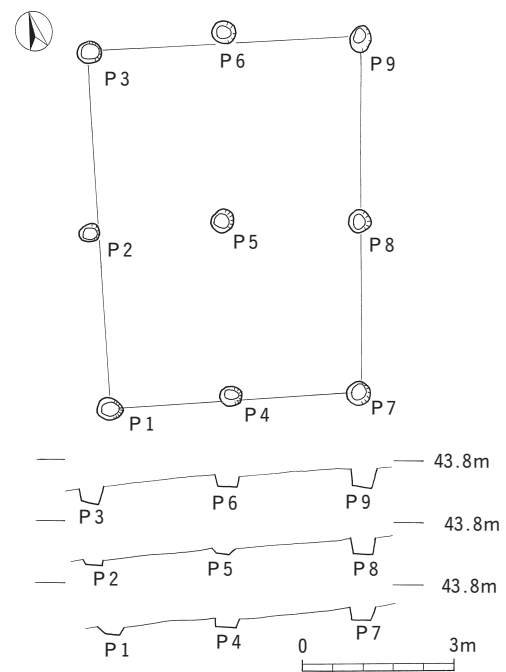
弥生時代は、2間×2間の総柱掘立柱建物跡1棟を検出したが、柱穴の底面形態や建物の規模から弥生時代の高床倉庫ではないかと考えられる。遺物は、前期の甕形土器・壺形土器や石庖丁が出土した。

中世は、掘立柱建物跡15棟と溝状遺構3条を検出した。掘立柱建物跡群は、2間×3間を基本とし、庇の数や柱間の規模に違いが見られる。1号と4号は四面庇をもつ。1号と2号、6号と7号、8号と9号、13号と14号が切り合った形で検出したが、少なくとも2つの時期にまたがるものと考えられる。遺物は、鎬蓮弁の青磁、口禿の白磁をはじめ多くの磁器が出土した。

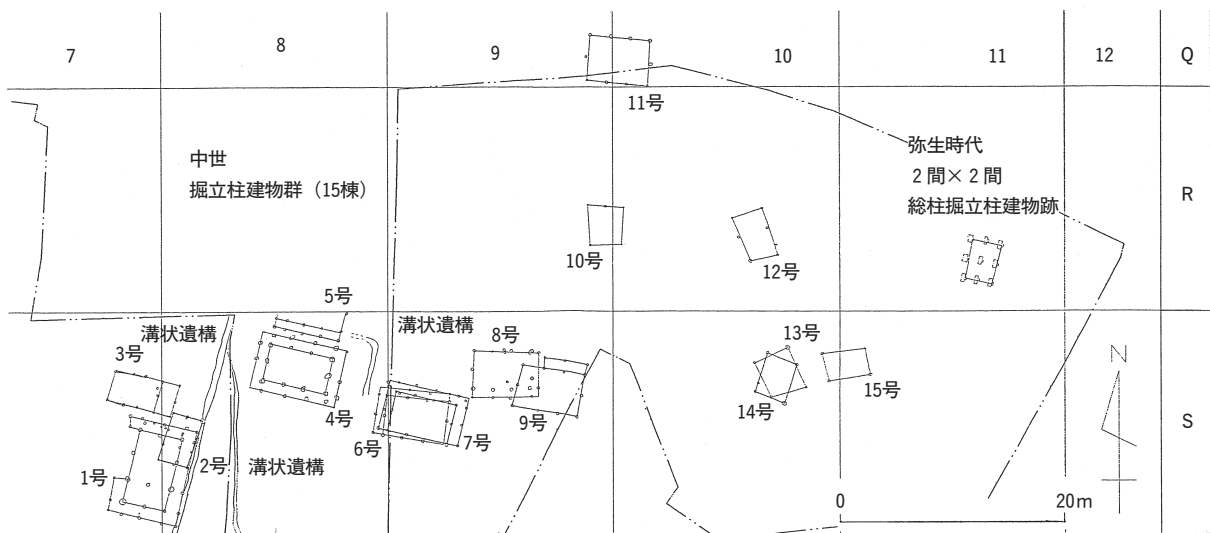
(川元禎久)



第1図 馬塚松遺跡の位置



第2図 弥生時代総柱掘立柱建物跡



第3図 馬塚松遺跡遺構配置図